

第1回千葉市観光振興検討会議 議事要旨

1 開催日時 令和6年11月20日(水) 午前10時00分～午後12時05分

2 場 所 千葉中央コミュニティセンター 10階 101会議室

3 次 第

(1) あいさつ(神谷市長)

(2) 座長選出

(3) 意見交換

- ・議事1 千葉市の観光振興の現状について
- ・議事2 千葉市の観光振興課題について
- ・議事3 千葉県が導入を予定している宿泊税の概要について

4 議 事

(1) あいさつ(神谷市長)

千葉市長の神谷でございます。本日は、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。また、委員の皆様方には、ご多忙の中、この検討会議の委員をお引き受けいただきまして、重ねて御礼申し上げます。

千葉市は、海外への玄関口である成田空港、また人口や企業が集まっております都心へのアクセスが良好で、その中に、充実した都市機能と豊かな自然環境を備えております。年間を通じ、様々な観光コンテンツやイベントを楽しめる魅力に溢れたまちであると考えています。

例えば、幕張メッセでは、9月に「X Games Chiba(エックスゲームズチバ)」が開催され、国内外から多くの関心を集めるスポーツイベントの一つとして大成功を収めました。また、毎年「SUMMER SONIC(サマーソニック)」や「COUNT DOWN JAPAN(カウントダウンジャパン)」など数万人規模の観客を動員する大規模な音楽イベントも定期的に開催されるほか、「東京ゲームショウ」や「CEATEC(シーテック)」などの展示会も行われ、産業誘致につながる最新のテクノロジーの展示会を行っており、国内外から多くの方に来ていただいております。

また自然環境に目を向けますと、海辺には千葉ポートタワーや稲毛海浜公園といったスポットがあり、夕方に海の上で音楽やお酒を楽しむ「SUNSET BEACH CLUB DJ PARTY(サンセットビーチクラブディージェイパーティ)」やキャンプとアコースティックライブ、ビーチのライトアップが楽しめる「STARLIGHT CAMPZ(スターライトキャンプズ)」といったイベントも開催され、多くの方に非日常的な体験を提供する新しい取組みも生まれています。

歴史的にも史跡が多数ございまして、特別史跡の加曽利貝塚、また文化的にも美術館、博物館、神社仏閣などがございます。動物公園に加え豊かな自然環境も内陸部には広がっており、自然や文化財と触れ合うことができる多彩な観光資源がございます。特に泉自然公園は、四季折々の美しい景観を楽しめるスポットとして多くの方に親しまれております。今は紅葉が見頃の時期を迎えておりますが、千葉ウシノヒロバでは地域の食材を使ったバーベキューやキャンプが楽しめるほか、地域の楽しさを堪能できるプログラムも展開されています。

またホームタウンチームも多く活躍しており、週末には様々な場所で様々なスポーツを観戦することができ、最近ではバスケットボールの試合を毎試合見に行くことができる状況もございます。

千葉市の観光に関する状況を改めて見てみますと、いわゆる観光施設やコンテンツの質、観光地としてのイメージの向上のほか、各エリア間の連携の強化など、たくさんの課題が現時点であると認識しており、特にコロナ5類以降、外国人観光客の宿泊数がコロナ禍前のまだ1/3程度にとどまっており、観光客数、宿泊数を増やしていくための取組みが急務でないかと考えております。

この後、事務局から詳細な説明がありますが、観光コンテンツの造成や磨き上げ、効果的なプロモーションの展開、国際会議やイベントなどの誘致における競争力の向上、そして来られた方が様々な地点を観光にいらしていただけるような回遊性の向上の取組みなど、今後、観光地としての魅力をさらに高め、千葉市を訪れていただく、千葉市を選んでいただくための取組みをしていかなければ、今お客様が戻っていないですとか、空港から都内へ向かっている方の千葉市内で立ち寄る宿泊施設が頭打ちになってしまうのではないかとといった危機感もございます。このように改善していかなければならない点があると考えています。

そしてそのような中で、先月、千葉県から宿泊税の導入に関する検討結果が報告されました。宿泊税は、観光振興を進め、持続可能なものとしていくための手法の一つとなる可能性を持っていると考えております。千葉市の魅力をより一層引き出し、千葉市が観光地として選んでいただけるためにも、宿泊税に対する考え方や活用方法について、ぜひ皆様とともに議論を深めてまいりたいと思います。

観光を通じて千葉市の未来を築いていくため、ぜひ皆様のお力添えを賜りたく、どうぞ忌憚のないご意見を頂ければと存じます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(2) 座長の選出

委員の推薦により、朝倉委員を座長に選任した。

(3) 意見交換

議題 1 千葉市の観光振興の現状について

(事務局) 千葉市の観光振興の現状について、資料をもとに説明を行った。

■委員

千葉市の外国人宿泊客の約 60%が幕張新都心地区とのことだが、どういう外国人が幕張に来ていると分析しているのか。

→事務局

千葉市では宿泊者数調査を毎年行っているが、令和 5 年の国籍別延べ宿泊者数では、市内全域で、台湾、中国、韓国が上位 3 カ国という状況。宿泊された方の立ち寄り先までの細かい分析までは手元にはない。

幕張を拠点に東京へ行かれたり、あるいは県のキラコンテンツであるディズニーランドにいらっしゃる方が泊まったりする傾向が表れていることは確かである。また、MICE の状況として、大型のイベントや会議が開催される際は外国人が一定数泊まるので、そうした部分も加味されていると推測している。

■委員

あくまで参考までだが、令和 5 年で回復率が 34.72%と出ているが、弊社も令和 5 年と令和元年を比較すると 5 割を若干切るぐらいの数値である。ただ、今期に入り、4 月から 10 月の累計で、すでに前年の約 9 割を超えてきており、今期終了時点では、このまま増えてくるとコロナ禍前に近い近づいてくるのではないかとという状況で推移している。

■委員

全国あるいは東京の回復に比べて、千葉市の回復率が思わしくないというのは残念な結果だが、全国から見ても千葉市の回復が悪いというのは、あくまでも東京をはじめとする主力の観光地が引っ張っているのではないかと。千葉市はあからさまに現状が悪く、回復傾向にはあると思うが、押し上げているところ、全国に引っ張られてしまっていて、当市の状況が思わしくないように見えているのかと。県内で見てもやはり浦安の回復率が突出しているので、そういうところが押し上げながら、当市の現状がうまく捉えられていないのかという部分があるので、その辺りのデータを今後いただき

たい。

→事務局

おっしゃる通り、瞬間風速でしか捉え切れていないが、この数字で言えることは、コロナが禍明けたすぐの移動として、観光地として千葉市が選ばれてないということ。今後令和6年、7年と千葉市の外国人宿泊者の数をきちんと抑えていかなければならない。

■委員

千葉市の観光の現状ということで、幕張を中心とした MICE、千葉市内の芸術、つまり都市型観光の部分と自然・文化を生かした振興を進められていることが非常に分かる資料になっている。

幕張地区のイベントツーリズムは、少し苦戦している状況ではあるが、昭和の森が大きくうまく伸ばしている、自然の部分が伸びている部分について、コロナ禍明けのマーケットの変化に合わせて何か取り組みをされているなど、分析されていることはあるか。

観光の要素において、「食」は重要な要素だと思う。千葉市では食のブランド化で「千」の取り組みなど、我々も枠組みに参加させていただき、力を入れている、非常に共感している部分であるが、現状の食のブランド化の進捗も含めて、教えていただきたい。

→事務局

若葉区や緑区のグリーンエリアは「チバノサト」というエリア名称を設定しており、この「チバノサト」の中で、ドライブマップを発行して周遊性を高めたり、デジタルスタンプラリーを行ったり、または「チバノサト」PR 協力隊といって各店舗などにもお願いし、周知・PR に努めている。その中には昭和の森も含まれる。

また「食」の部分では、こういった里山エリアで放置竹林が拡大し、地域環境を害するような課題も有しており、その中で、放置竹林対策も兼ねて、竹を焼いた炭を食用パウダーに加工し、パンやそばなどに混ぜ込んで出来上がる黒い食べ物を「竹炭グルメ」として、お店と協力し開発したり提供したり、グリーンエリアの PR 推進に努めている。

昭和の森について若干補足をすると、かつてユースホステルだったところを、民活で事業者を入れ、今誘致活動も行っているが、例えばスポーツ団体などを誘致し、そこでキャンプや合宿的なものを行う、そういった取り組みも功を奏していると思われる。

また、コロナ禍に、どこの公園も密を避けるというところで入込みが増えたが、その中で、自然ににいるということがどれだけ楽しいか、リラックスできるかという部分も、若干定着してきていると思っている。昭和の森然り、こうした傾向をうまく掴みながら、観光施策につなげていければ良いと現在検討している。

■委員

国際会議の開催状況で、東京、横浜に水をあけられてしまっていることに非常にショックを受けている。千葉市の財政状況で、歳入歳出とも非常に厳しい状況であることは分かったが、この厳しい状況の中で、観光関連事業決算予算額の推移の 5.8 億円という数字が、その他のグローバル MICE 都市や近隣の政令市と比較してどうなのか、足りているのだろうか。千葉市は観光資源がたくさんあるのに、周知が不足しているのではないかと個人的に感じているが、その辺りは千葉市としてどのように捉えているのか。

→事務局

おっしゃる通り、(観光関連事業予算額は) 令和4年度の決算を除けばここ数年5億円ぐらいだが、他の政令市との比較はできてない。ちなみに、県は10数億円と聞いているので、千葉市は大体その半分程度。

千葉市の特徴とすると、大型フェスや X Games のようなイベントを盛り上げて、いわゆる千葉市としてのブランディングや市民の方々に千葉市への誇りを持ってもらうということに、ここ数年力を入れている。そういったイベントに対する支援や MICE は他の政令市には負けてはいないので

はないかと考えている。

■委員

コロナ禍前の観光関連事業決算がかなり減少傾向にあるが、なぜこれほど減ってしまったのか。コロナ禍後の令和5年、6年は5.8億円程度になっているが、コロナ禍前からかなり増えている。これはコロナ禍後にもコロナ関係の補助金があったためか、別の理由か、コロナ禍前3億円を切っていた予算が変化した理由を教えてください。

観光というのは外貨を稼ぐ手段だと思っている。千葉市民が（千葉市のイベントに）来ても、もちろんお金は落ちるが、結局市の中でお金が動いてもあまり意味がない。イベント、大型フェスの来場者数について、千葉市外から来ている人の比率などのデータは持っているか。もし取っていないのであればいくら使っているのか、市民に比べ市外の人の方がきっと高いはずだが、「きっと高い」ではなく、どれぐらい消費単価が違うのかをこの先データとしてきちんと取る必要がある。それを踏まえて、どこから取るのかという戦略を考えていく必要がある。

宿泊者、特に外国人客が戻っていないという話があったが、令和5年の外国人が全然回復してないということはどこに取られているのか。同じ県内で浦安市、成田市に取られているのか。そうではなくて、やはり東京に取られているのか。ライバルがどこにあるのか教えてください。

→事務局

平成30年度から令和3年度までについての予算の減少だが、詳しく分析をしてみないと分からないところはある。県も市も同じだと思うが、令和2年度、令和3年度は、観光政策が打てなかった時期。その後、国もいろいろテコ入れをし、戻ってきている。特に千葉市としては、MICE誘致というのが都市型観光の一つの大きな柱だと考えており、令和5年度、6年度については、そういったところに力を入れ、それが5億円というような数字に出てきていると考えている。

イベントの市外客数だが、残念ながら押さえ切れていないのが現状。MICEを開催したり、国際会議を誘致したりするのは、やはりその消費単価が高いということが魅力であり、その経済波及効果を捉えると推進していくべき大きなポイントだと思うので、ご指摘いただいた観光統計の整理を今後我々も課題として進めていかなければいけない。

外国人客がどこに取られているのかについては、千葉県が外国人の戻りが約67%、成田市が61%、浦安市が120%に対し、千葉市が34%なので、当然、東京への旅程ルートから千葉市は外れているので、選ばれていないというのは重々承知している。県内でもやはり浦安市は戻っているけれども、千葉市はそこまで戻り切れてないため、この辺りはライバルというのかどうか、それぞれ観光地としての魅力が違うので、それぞれの立場があると思うが、我々とする、浦安市や県内と比べても戻り切れていないといった分析をしている。

東京都の外国人宿泊者数の令和元年と令和5年での回復率は148%で、やはりゴールデンルート、中でも東京に泊まりたいという方が大勢いる。コロナ禍明けで久しぶりの日本でどこに行くかというやはり東京といった感覚を多くの方が持っており、そういったものもこの東京都の148%という数字に表れていると考えている。

■委員

（観光関連事業費が）令和2年度、3年度に減少したことは理解できる。その後回復し令和5年度以降が5億円台で推移しているが、今後市の方向性としては、この数字が標準化していくのか。この検討会については宿泊税を導入するかどうか、というところなので、宿泊事業者の気になるところは、今の5億円台が（宿泊税を）導入することにより2億円台・3億円台に変化して、それを宿泊税で補填していくような考え方になるのかというところ。宿泊事業者としては、そこが導入に向けての可否、意見が分かれてくるところではないかと考えている。社会情勢で人口減もあり、当然千葉市に限らず税収がどんどん減少するというのは明らかであり、この観光関連事業費に資するものが、それと同じ割合で減少するということであれば当然理解はしていくと思うが、もちろん市税の中では福祉や社会保障の方が優先されるので、そこで宿泊税の補填となってくると、色々な考え方があるので一概には言えないにしても、反対の意見というのが結構散見するようになると危

惧している。

外貨を稼ぐという話があったが、千葉市の滞留としては、千葉市民が千葉市の中で働いていることが特徴であり、今後平時に戻って、色々な収入あるいは予算化していく中でも、これを活性化するというところ来说うと、市外の方にたくさん来てもらうという必要性があると思う。それ以外に千葉市では活路が見出だせないのかと。

宿泊施設の稼働率のデータでは千葉市の客室稼働率は 62.6%であったが、この推移も調べていただきたい。現状は 62%だが、宿泊事業者でも大型、小型あるいは民宿などがある中でこの数字は肌感覚だけで言くと、一般的なものだと思っている。これが減少傾向の数字なのか、平均なのか、あるいは上昇しているのかという点を、推移として今後調べていただきたい。この数字は、宿泊事業者の中では標準的で、特段低くなっている感じでもないと思う。

→事務局

推移については調べて次回報告をする。

議題 2 千葉市の観光振興課題について

(事務局) 千葉市の観光振興課題について、資料をもとに説明を行った。

■委員

総論の課題に「観光コンテンツの造成・磨き上げ」とあるが、まさにこれはその通りだと思う。最近ガストロノミーツーリズムと言って、要は田舎のような地域の特性を生かして、その地のものを食べさせたり、古い民家にそのまま泊まったりという特別な体験を求めて、それがどんな山奥でも 1 泊 10 万でも 20 万でも払って外国人客は来ると聞いている。このようなことは、千葉市のグリーンエリアなどで展開できる可能性があると思う。そういったものを今回の予算で調査、発掘するようなことをぜひやっていただきたい。

■委員

ご説明いただいた通りだと思う。市の行政を批判する訳ではないが、一番の課題はやはり周遊性。一つ一つのコンテンツ自体に魅力はあることは重々分かってはいるが、観光客、観光目線で見た時に、その一つのスポットに行って、次に行こうかという、二次交通も含めた交通手段なり距離的な問題であり、要は面で観光が成立してないことが一番大きな原因になっている。

その中では、海浜幕張周辺は、少しは面が整っているエリアかとは思いますが、そうとはいえ、同じ MICE を誘致する東京ビッグサイトやパシフィコ横浜と比べると、近隣の街並みにやはり魅力が欠けてきている。そういうところが、先ほどの目標に挙がっている長期的なイベントを誘致するということにマイナスに働いてくる。

これは幕張に限らず、全体で言うとむしろ県全体なのかもしれないが、魅力ある観光地が現状で独立しすぎており、一つのコンテンツでもそれなりの魅力があれば今のインバウンドは来るが、その情報発信は徹底的にする必要性もちろんあるが、その一方で周遊性を高めるための情報発信ルートを作るなり、あるいはそのルート整備の交通網を周知していきなり、一つのスポットの周辺の観光魅力を整えるようなまちづくりなど、そういうところが今後の課題になっていくと思っている。市でまとめたいただいた意見そのままだと思うので、今後その辺りの議論になってくると思う。

■委員

観光振興を進める上で、ランドデザイン計画は今どのような状況か、ご教示いただきたい。課題はおっしゃる通り、例えばコンテンツづくりも、誰向けにつくるのか、BtoC か BtoB なのか、国内かインバウンドなのか。ターゲットをどうするか。それによって、誰に情報発信をするのか、そういった部分の大きな計画があってこそ課題の施策であると思う。それで、各課題に対して KPI、KGI を置いて、3 年後、5 年後どうしていくか、あるべき姿に対して打ち手を打っていくことが必要だと思っている。

→事務局

令和5年3月に千葉市経済成長雇用創出ビジョンを策定している。コロナ禍が明け、いわゆる千葉市を引っ張っていくための柱の一つとして、観光振興を挙げている。今ある計画というのはこれになるが、おっしゃる通り、もう少し戦略的な計画も必要であるため、今後その辺りを検討していきたい。

■委員

先ほどの外国人宿泊数に絡んでくるが、あくまでもホテルに宿泊いただく外国のお客様の目的は、残念ながら単純に千葉市の観光でご宿泊いただく方はほとんどいない。幕張メッセもしくはアジアからのグループ客でディズニーに行くという方がほとんど。先ほど他の委員もおっしゃったように、魅力あるコンテンツは色々あると思うが、バラバラで、うまく訴求できてないのでは。

数は少ないが、アジアからの富裕層の個人客でゴルフをされる方がたまにいる。千葉県は全国有数のゴルフ場の数だと思うので、そういったものも絡めていくのは面白いのではないかな。

■委員

非常に課題をしっかりと分析されているが、ランドデザインというか、戦略的な視点で様々な事業を行っていくことは、対外的に見せるためにも必要である。観光振興は行政だけでは進められないため、民間の事業者も巻き込んで、一丸となって向かっていくために課題を共有し、それを解決していく方向性にしていただけるとありがたい。

■委員

今、市の観光計画はないということか。

→事務局

千葉市経済成長雇用創出ビジョンがあり、その中に一つの大きな柱として観光振興を位置付けており、今後それを進めていくことは書いている。ただ、先ほど委員がおっしゃったような、いわゆる戦略的な、ターゲット決めてというところまでは書かれてないため、そこは今後進めていく必要がある。

■委員

ひとまずはその上位計画に則って進めるしかないが、今後千葉市が本当に観光を産業として育てていくのであれば、分野別計画として観光計画や観光戦略を立てていった方が良い。市だけでは何もできないので、民を巻き込むためには市の決意を示すことが良い。

課題については、課題の設定の仕方がこれで良いのか、疑問を呈しておくので、後でご検討いただきたい。

観光コンテンツについてだが、突き抜けたコンテンツがないというのが千葉市の現時点での課題なのではないか。千葉市の集客施設の設備などについて書かれているが、これが課題だとしてこれを解決すれば観光客が来るのかという視点で見ると、通信環境の整備、この博物館のWi-Fiが使えると言ったら人が来るか。多言語化についても英語と中国語のパンフレットがあっても、それが集客の本当の理由にはならない。老朽化、ユニバーサル化も、車椅子で行けるから行こうとなる人はいないと思うので、このコンテンツ造成については、本当に通信環境が整っていないことなどが課題なのかも一度考えていただいた方が良い。

それから情報発信について、「宿泊地」という言葉がない。外国人宿泊客が少ないという問題がもう分かっているのだから、これは単なる立ち寄り地ではなく、「宿泊地」として選ばれることを念頭に置かないと、千葉市としてのアイデンティティがますます薄れてしまう。1時間の立ち寄りで300円しか落としてくれないお客さんよりは、宿泊してきちっとお金を落としてもらう、そういったお客さんを取らなければならない。千葉市は宿泊地としてこの先国内・外客にもそのイメージを定着していかなければいけないため、「宿泊地」という言葉を絶対に入れていただきたい。

この件については、後でまた検討いただきたい。

議題3 千葉県が導入を予定している宿泊税の概要について

(事務局) 千葉県が導入を予定している宿泊税の概要について、資料をもとに説明を行った。

■委員

DMO について、県には観光物産協会が既にあるが、それとは別のものを作るということか。

→事務局

県もまだそこまで方針を決めてないと思う。民間と一緒にやっていかないといけないということだとは思うが、今ある観光物産協会を使うのかなどについては、我々はまだ県から説明を受けていない。

■委員

千葉県で宿泊税 150 円、県の部分はこれから補助金なのか交付金なのか、扱いが変わってくると思うが、補助金であろうが交付金であろうが、先ほど説明したようなグランドデザイン、市の観光振興計画、こちらに沿って、補助金であれば県の方針の中で市の方針と合っているものを選んで手を挙げて使う。交付金であれば、進行計画の中で進めていく方針に沿って交付金を使うというように、要は指針となるものがないと、おそらく観光、宿泊事業者にとっても、実際何に使われているか見えにくくなってしまうと思うので、観光振興計画は必要であると思う。立ち止まって振り返った時に、なぜ使っているのか、また担当者が変わった際も振り返るものがないと進められないのでは。

さらに言うと、今後検討が必要だと思うことは、県でも 150 円、市でも 150 円となった場合、その 300 円をなるべく宿泊事業者には負担がない形で、納税をまとめてするスキームなど。

先に指摘があったように、元々の観光関連事業費 5 億円に、例えば宿泊税が加わり市にプラス約 4 億円、全体で 9 億円の観光の予算となった際、これは宿泊税で使われているのか、それとも元々の市の予算で使われているのか、見える化・可視化もしていかなないと、宿泊事業者の負担が多くなってしまう分、より分かりやすくしていくことが大事である。

■委員

宿泊事業者の立場からで言うと、もちろん県でも導入当初から話があったが、徴収するのは宿泊事業者になるため、使途の見える化は絶対条件になる。

今後導入した時に、その使途の財源が宿泊税か、今の市の観光予算の中からか、また合わせ技になるケースもあるかと思うが、そういう場合においても、現状の観光予算からいくら使い、宿泊税からいくら使うかが本当に逐一見えるような状況になっている必要がある。

今県でも検討しているが、使途を作る際、観光・宿泊事業者の意見を聴取しながら、併せて使途を出した後の検証期間の設置が、徴収する側、宿泊事業者側の完全なリクエストになってくるため、スタートの段階で、明確な意思や回答がないと、おそらくこれを議論していても宿泊事業者が NG という議論になってくる。ぜひここは当初の段階から担保していただいた上で議論を進めていただきたい。

■委員

千葉市としてどうやって観光振興を行っていくかという議論をしっかりとした上で、本当に宿泊税を導入するのかわからないのか検討を重ねていかなければいけないと思う。

■委員

既存の組織があるなかで、通常は市町村や県の観光協会や観光連盟を DMO と読み替える方法を取る。というのも、既存の観光協会があるのに別途 DMO をつくるのは、人もいないしお金もないため、絶対にできない。県のこれは既存の組織を DMO にするというようなことになってくるのでは。

市町村と DMO の支援が約 11 億円とあるが、10 億円が DMO に行ってしまう可能性もある。もし県が導入するのであれば、市町村に 0 円はないと思うが、やはり千葉市として、今の 5.7 億円程度の予算ではできない、何ができない、というのがない。「もらったら何かやる」では許されない時代になっている。千葉市が魅力的な観光地になりコンテンツを充実させていくためには、今の予算では足りないの、そこに宿泊税が入ってくればもっと色々なことができるという、その議論を市としてしっかりしていかなないと、県としても交付金でばらまくことはできないと思う。県の議論と並行して、千葉市の中でも本当に何をしなければならないのか、議論をしていくことが重要である。説明責任も絶対発生するので、(宿泊税を)使ったこうなったというところは、その検証までも含めて有効に使うことを目指して、さらに議論を進めていく必要がある。

■委員

この宿泊税を導入するのかもしれないかというところについては、先ほどから話が出ているグランドデザインがしっかり整備されて、それで今の(観光関連事業費)5 億円では足りないかどうかからの議論のスタートになる。徴収する宿泊事業者の立場で言えば、市内にももちろん財源の多くは幕張から上がってくるかと思うが、緑区、若葉区にも観光施設なり宿泊事業者もいるので、広くそういうところに恩恵が行くのかどうか的大事。全体で言えば、徴収者はやはり宿泊事業者になり、そこに確実に今後の経営に役立つような支援が施されるのか、というところに徴収側としてはアンテナが立ってくると思うので、それはしっかりしていただきたい。

■委員

千葉市には本当に素敵な観光資源もたくさんあるが、今日説明いただいたように、やはり課題も当然ながら色々ある。しかし、空港の間にある、東京からも近いというこの立地は、他に代替できない部分であり、特にこの立地をどう生かしていくのかということも頭に入れていただいて、もう一度本当に何が魅力で何が問題なのかを丁寧に整理した上で、本当に何がこれからの千葉市に必要なのかということを、時間をかけて慎重に議論をして、千葉市として宿泊税を導入するかどうかという議論に持っていければ良いと思っている。